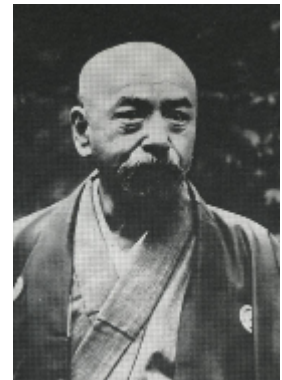


# 南方熊楠 (みなかた・くまぐす) 1867~1941

民俗学者・粘菌学者 ~ 博覧強記 紀州の<知の巨人> ~

**出生** 慶応3年4月15日(1867) 金物商・南方弥兵衛の次男として、和歌山城下の橋丁(現・和歌山市橋丁)に生まれる。

**履歴** 1883年和歌山中学(現・桐蔭高校)卒業後、上京して共立学校で後の蔵相・高橋是清より英語を学ぶ。翌1884年、夏目漱石、正岡子規、山田美妙らが同期の東京大学予備門(後の旧制一高)に入学するが、1886年には退学してしまう。この年の末より渡米、16年にわたる海外生活を送る。アメリカでもいくつかの大学へ入退学を繰り返したが、結局独学の道を選んだ。1892年アメリカからイギリスへ渡る。大英博物館で得た仕事は、東洋資料の整理であった。『Nature』『Notes and Queries』への寄稿を度々行う。この2誌への寄稿は帰国後も続けられた。1900年9月帰国の途につく。日本に帰ってからの熊楠は、田辺の地において熊野地方の植物や民俗の研究に専心するようになる。1929年白浜への昭和天皇の行幸の際、諸生物の標本を広げて進講している。



**事績** 地衣学と粘菌学の研究に没頭した。在米時代と、英文文献を読みあさっては学術雑誌への寄稿を繰り返した。在英時代を経て、帰国後も熊楠は欧米の研究者と交流を持ち、東洋文化の紹介も積極的に行った。彼は民俗学者・植物学者として知られているが、既成の型にはまることなく、自由な思想と広い学問領域で活躍した。熊楠の活躍は学問研究以外にも及び、明治40年頃から約10年にわたり行われた神社合祀への反対運動では、関係者として投獄されたこともある。熊野神社等由緒ある神社を多くもつ和歌山県で合祀令が施行された際、熊楠は反対運動を起こし、神社の歴史や人々の信仰を顧みない合併が不合理に行われたことに対して、強く抗議した。

**評価** 民俗学の分野での熊楠は、柳田国男や折口信夫とよく比較されるが、彼らほどには評価されていない。彼の学問思想が体系立ったものでないため、定まった評価がされてこなかったといわれている。また、日本で研究の遅れている粘菌の分野で、日本の水準を世界のレベルにまで引き上げたことは大きな功績であるが、一方で、植物学者・牧野富太郎からは、文学者としては高く評価されながらも優れた植物学者とはみなされなかった等、評価の分かれる部分でもある。ちなみに粘菌とは、動物と植物の性質を併せ持つ特異な生命体で、アメーバ状に動き回り微生物を食べて成長する時期と、胞子を形成して休眠する時期を交互に繰り返す。今日では「変形性菌類」と呼ばれることが多い。

## 代表作

『方丈記』 ロンドン大学総長ヴィクター・ディキンズと協力して英訳、『英国王立アジア協会雑誌』に発表された。全集10巻に収録。

『燕石考』 ロンドン時代に構想が立てられ、帰国後完成された熊楠の英文論考の到達点である。燕の子安貝が竹取物語以前にも、世界で流布していた俗信であることを説いている。別巻1に英文で収録。

「十二支考」 雑誌『太陽』(博文館)1914~1923年に年1回掲載。仏典に対する豊富な知識を駆使し多数の引用を行った十二支に対する論考(ただし牛を除く)。全集1巻に収録。

**エピソード** 驚異的な記憶力をもつ熊楠は、少年時代に『和漢三才図会』105巻を3年かけて筆写したが、その方法は、同級生宅で暗記してきた文章と図を、自宅で紙に写し取るというものだった。同じ方法で『本草綱目』『諸国名所図会』『大和本草』等も筆写している。また語学力にも優れ、20ヶ国語に近い言語を理解できたという。その交友も多彩で、在米時代に知り合った孫文とは深く親交を結び、熊楠帰国後の1901年に孫文が和歌山を訪れて再会を果たした。柳田国男とは1911~14年の間、大量の書簡をやり取りしており、民俗学についての議論を展開したり、神社合祀問題についての援助を求めたりしている。この書簡については、全集8巻のほか、『柳田国男南方熊楠往復書簡集』が出ている。

**最期** 1941年(昭和16)12月29日、萎縮腎に黄疸を併発し、田辺で死去。享年74歳。

## Great Works 11

南方熊楠全集 全12巻 平凡社 1971~1975年 <081.8 / 47>

**解題** 熊楠の思想と学問の全貌を把握することは、その著作が友人への書簡の形をとったものが多く

体系的著述がなかったり、英文の論文が多かったりすることから容易ではないが、彼の鋭い発想法は物の見方に対して貴重な示唆を与えるだろうとの信念から、旧版（乾元社版）<081.8/1>よりもはるかに多くの文章を収録し、熊楠の思想の集大成となるべく編集・刊行された。

#### 内容

第1巻 十二支考 [雑誌『太陽』(博文館)1914~1923]

第2巻 南方閑話 [坂本書店 1926] 南方随筆 [岡書院 1926] 続南方随筆 [岡書院 1926] \*南方の著書のうち生前に刊行されたのはこの3冊のみである。

第3巻 = 雑誌論考 [『東洋学芸雑誌』ほか雑誌20誌に掲載された論考]

第4巻 = 雑誌論考 [『彗星』ほか雑誌12誌に掲載された論考]

第5巻 = 雑誌論考 [『ドルメン』ほか雑誌7誌に掲載された論考]

第6巻 = 新聞随筆 [『牟婁新報』ほか8紙の新聞及び『週刊朝日』に掲載された随筆と、未発表の随筆を収録]

第7巻 = 書簡 [主として明治時代のもの。在米時代・神社合祀問題関係他]

第8巻 = 書簡 [柳田国男、高木敏雄、その他民俗学関係の人々に宛てた書簡]

第9巻 = 書簡 [第7・8巻収録以外の多方面に及ぶ書簡]

第10巻 = 英文論考・英訳方丈記・初期文集他 A Japanese Thoreau of twelfth century (英訳『方丈記』)[『英国王立アジア協会雑誌』(1905)掲載 文末に鴨長明に関する2つの註釈あり。ロンドン大学総長ディキンズとの共訳] The constellations of the far east (極東の星座)[『Nature』(1893)掲載] Footprints of Gods (神跡考)[『Notes and Queries』(1900)掲載] 他

別巻1 = 書簡補遺・論考補遺 The origin of the swallow-stone myth (英文『燕石考』)[草稿 1899? ~1903] 他、補遺

別巻2 = 日記・年譜・著述目録・総索引

## 参考文献 ~この人をもっと知るために~

### < 図書 >

- ☞ 南方熊楠 進化論・政治・性 / 原田健一著  
平凡社 2003年 267p <289.1MM/4350> 資料番号 21660246
- ☞ 岳父・南方熊楠 / 岡本清造著, 飯倉照平・原田健一編  
平凡社 1995年 380p <289.1DD/3436> 資料番号 20801254
- ☞ 南方熊楠を知る事典 (講談社現代新書) / 松居竜五ほか編  
講談社 1993年 653p <289.1MM/3195> 資料番号 20577607
- ☞ 南方熊楠、独白 / 中瀬喜陽著  
河出書房新社 1992年 250p <289.1AA/3043> 資料番号 20439311
- ☞ 森のパロック / 中沢新一著  
せりか書房 1992年 529p <289.1AA/3132> 資料番号 20513867
- ☞ 南方熊楠の図譜 / 荒俣宏・環栄賢編  
青弓社 1991年 229p <289.1AA/3015> 資料番号 20411211
- ☞ 南方熊楠 一切智の夢 (朝日選書430) / 松居竜五著  
朝日新聞社 1991年 261,11p <289.1/2941> 資料番号 20340501
- ☞ 南方熊楠 (講談社学術文庫) / 鶴見和子著  
講談社 1981年 318p <289.1/1710> 資料番号 10537535
- ☞ 柳田国男南方熊楠往復書簡集 / 柳田国男・南方熊楠著  
平凡社 1976年 464p <381.1/31> 資料番号 11169190
- ☞ 南方熊楠 人と思想 / 飯倉照平著  
平凡社 1974年 320p <289.1/1141> 資料番号 10531473
- ☞ 南方熊楠 / 笠井清著, 日本歴史学会編  
吉川弘文館 1967年 368p <289.1/562> 資料番号 10524759

### < 雑誌論文等 >

- ☞ 特集南方熊楠 / 松居竜五ほか著  
現代思想 (青土社) 20巻7号 [1992.7] <Z105/9>
- ☞ 南方熊楠邸新発掘記 / 中瀬喜陽・松居竜五著  
新潮 (新潮社) 87巻10号 [1990.10] <Z051/13>
- ☞ 特集甦る南方熊楠 / 中沢新一ほか著  
新潮 (新潮社) 87巻8号 [1990.8] <Z051/13>